

## 令和5年度創造都市ネットワーク会議（総会） 開催報告

創造都市ネットワーク会議（総会）は、創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして設立された「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）」の総会として開催し、当年度の事業報告や次年度の事業計画、今後の目標等についての審議を行う会議である。

### 【全体概要】

- 今年度の創造都市ネットワーク会議（総会）はオンラインで開催し、当年度の事業報告と次年度の事業計画及び代表幹事・幹事団体の改選について審議を行った。
- 井村寛子氏（北九州市市民文化スポーツ局文化部文化創造都市推進担当課長）、児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当）の開会挨拶後、事務局よりCCNJの設立経緯や新規ビジョン、運営体制等の説明があった。
- 議案審議は、事務局から各議案（第1号議案：令和5年度事業報告について、第2号議案：代表幹事・幹事団体の改選について、第3号議案：令和6年度事業計画（案）について）の説明が行われ、第1・3号議案については事前議決（電子投票）で賛成多数、第2号議案の修正案については当日議決により、全議案が承認された。
- 第1号議案（令和5年度事業報告について）では、各部会の事務局から追加報告があり、第3号議案（令和6年度事業計画（案））でも、次年度の各部会の事務局から挨拶や予定等の説明があった。
- 第2号議案（代表幹事・幹事団体の改選について）では、新任代表幹事と新任幹事からの挨拶があった。
- 議案審議終了後、昨年度の総会以降に新規に加盟された2つの自治体が紹介され、大町市と御代田町からの挨拶があった。
- 最後にCCNJ顧問の佐々木雅幸氏が総括した。

開催日時	令和6(2024)年2月20日（火）15:00～16:10
開催方法	オンライン開催（ZOOM ミーティング）
主催	北九州市（代表幹事）
共催	創造都市ネットワーク日本（CCNJ）、文化庁
参加人数	102名
参加自治体・団体数	自治体：54、団体：5（個人会員：1）
議決方法	事前に議決の電子投票を実施 全回答数121 過半数61 第2号議案のみ、事前決議後に修正案が提出されたため当日議決 総会に出席した構成員数60 過半数31
プログラム	□開会挨拶 ・井村寛子氏（北九州市市民文化スポーツ局文化部文化創造都市推進担当課長）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当）</li> <li>□議案審議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1号議案 令和5年度事業報告について</li> <li>・第2号議案 代表幹事・幹事団体の改選について</li> <li>・第3号議案 令和6年度事業計画（案）について</li> </ul> </li> <li>□その他（CCNJ 新規加盟団体の紹介）</li> <li>□CCNJ 顧問による総括 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問）</li> </ul> </li> <li>□事務局からの連絡</li> </ul>
--	---

**【井村寛子氏（北九州市市民文化スポーツ局文化部文化創造都市推進担当課長）の挨拶要旨】**

- ・CCNJ 創造都市ネットワーク日本では、北九州市が2年間にわたり代表幹事を務め、参加団体の皆さま、文化庁の皆さまの協力をいただきながら、各事業を進めてきた。本日の総会は、今年度の活動内容や代表幹事、幹事団体の改選、来年度の事業計画案に関して議案審議させていただきたく。
- ・北九州市は明治以降、官営八幡製鐵所の創業を機に、工業都市として発展を遂げ、大陸や首都圏などから人や情報が流れ込み、地域の文化と交わる文化先進地として栄え、市民・企業・アーティストの皆さまが集い、本市の豊かな文化芸術の土壌を生かしながら、創造的なまちづくりに取り組んできた。また北九州市は令和5年2月10日で市制60周年を迎え、様々な文化行事を行ってきた。これからの未来においても、文化芸術のまちづくりを一層の発展につなげるため、令和6年度からも皆さまと一緒にCCNJのビジョンの達成に向けてまい進したい。

**【児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当）の挨拶要旨】**

- ・文化庁では、CCNJの活動に対する支援を行うことにより、全国的また広域的なネットワークの充実・強化を図るとともに、地域の文化芸術資源を活用した取り組みを活発化させるなど、わが国における文化芸術創造都市の取り組みを推進していくために歩みを共にしてきた。
- ・第2期の文化芸術推進基本計画が昨年3月に閣議決定され、地域における文化芸術振興拠点の整備・充実を目標の一つに掲げ、その目標を達成するために推進する取り組みの一つとして、文化芸術創造都市施策に取り組む地方公共団体等による全国的・広域的ネットワークの充実・強化を図ること、そしてユネスコ等の国際的な都市間のネットワークを生かした交流を図り、文化芸術の持つ創造性を地域振興・観光また産業振興等に活用し、地域課題の解決に積極的に取り組む活動を促進することをうたっている。
- ・これらの目標を達成するためにも、創造都市として文化芸術を通じた地域振興の先頭を走る皆さまとともに、文化庁も一緒に汗をかいていきたい。そして、その先に文化芸術立国の実現を目指した取り組みがあると思う。

**【令和5年度各部会事務局の追加報告要旨】**

**①現代芸術の国際展部会**

横浜市：

今回の担当者ミーティングは実際の札幌市の事例を踏まえた上で、担当者間のディスカッションを深めていきたいという強い思いがあった。札幌市により SIAF2024 の事業説明について説明いただき、事業資金の獲得方法や事業の効果検証などについて、8自治体、2団体の方々とディスカッションを行った。

事前に参加者へアンケートも実施し、各自治体が抱えている課題なども共有できたため、有意義な時間になった。

## ②創造農村部会

丹波篠山市：

本年度は3回実施した。第1回目は、オンラインにて兵庫県豊岡市の城崎国際アートセンター、KIAC 館長などを歴任された田口幹也様から人材育成をテーマにご講演をいただき、部会員との質疑応答では、それぞれの自治体が抱える課題などを踏まえた活発な議論が行われた。

第2回は、岐阜県の可児市にてハイブリッドの公開型で実施。初日は可児市文化創造センターala の籠橋館長に基調講演をお願いし、その後、部会員市町から代表者が1名ずつ参加したパネルディスカッションを行った。モデレーターを依頼した野田先生からは、まとめとして過疎地域再生のレシピと題した事例発表をいただいた。2日目はalaにてエクスカージョンを実施した。

第3回は、オンラインにて本年度の振り返りと意見交換を行い、来年度の現地開催地を北海道の東川町とすることを決定した。

## ③国際ネットワーク部会

京都市：

11月に東アジア文化都市を開催中の静岡県、静岡市の協力のもと、部会をハイブリッド形式にて開催。2025年の大阪・関西万博を見据えて、発信力の強い食文化をテーマに議論した。

事例紹介として、山形県鶴岡市と兵庫県丹波篠山市、大分県臼杵市から先進的な取り組みを紹介、その後、ディスカッションを行った。また東アジア文化都市のプログラムの一つである大道芸ワールドカップを視察した。

食文化は地域によって様々な取り組みがあり、これらを活性化することで地域のシビックプライドを醸成することができ、食文化に関する取り組みを情報共有しながら進めていくことが重要であると認識した。

## 【代表幹事・幹事団体の改選による新任都市の挨拶要旨】

高松市：

本市は、平成24年4月に創造都市推進局を設置した他、25年10月に創造都市を推進するための総合的かつ基本的な指針として、「高松市創造都市推進ビジョン」を策定し、「瀬戸内国際芸術祭」など、文化芸術と産業の融合を意識した創造的な取り組みを約10年間継続してきた。

それらの取り組みが実を結び、昨年7月には「G7 香川・高松都市大臣会合」が本市で開催され、近年は世界からも注目を集めている。世界からの注目を意識しつつ、コロナ禍をはじめとする近年の社会環境の変化や、これまで創造都市推進施策に取り組む中で見えてきた課題等に対応した新たな指針として、「第3次高松市創造都市推進ビジョン」を始動、様々な取り組みを進めるとともに、創造都市ネットワーク日本を通じて創造都市間の連携や交流を図り、お互いに発展していきたい。

札幌市：

本市はメディアアーツ分野でユネスコ創造都市ネットワークにも加盟している。

メディアアーツ創造都市としての活動内容は、現在開催中の札幌国際芸術祭のほか、さっぽろ雪まつり時期に合わせて市内中心部での実地展示とオンライン展示を併用したメディアアーツ作品展、サッポロパラレルミュージアム等イベントを開催、いずれも地下歩行空間や札幌大通公園など、都市空間を一つのメディアとして捉え、テクノロジーも活用しながら制作したアート作品で街中を彩ることにより、文化芸術を推進して都市の魅力を効果的に発信する取り組みである。

山形市：

山形市は、国内で唯一、映画分野でユネスコ創造都市ネットワークに加盟認定を受けている。1989年以降、隔年での山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催や山形フィルム・コミッションの活動、その他東北では珍しいデザイン系大学として東北芸術工科大学の立地や、山形交響楽団の本拠地となっていること、芋煮に代表される食文化など、ユネスコ創造都市の7分野を全て有している多様性も高い評価を得ていると聞いている。

またユネスコ創造都市ネットワークの加盟当初から、国内外の創造都市関係者を招き映画や創造都市をテーマにシンポジウムを開催している。開催の際にはCCNJ加盟都市の皆さまにもご案内したい。

板橋区：

板橋区は、絵本に関わる国際的なネットワークを持つ板橋区立美術館と世界各国の絵本を所蔵するいたばしボローニャ絵本館が併設された板橋区立中央図書館がある。また、印刷製本業が集積している区の独自性を生かし、区のブランドとして絵本のまち板橋の展開推進を行っている。今後の幹事団体としての活動を通じて、文化・産業・観光振興や教育活動など、さまざまな分野において絵本の魅力を生かした取り組みを進め、絵本を通じて交流と活動が生まれるまちを目指したい。

岡山市：

岡山市は、岡山芸術交流という国際展を3年ごとに開催しており、次回2025年開催に向けて準備を進めている。また、昨年10月末にユネスコの創造都市ネットワークの文学分野で加盟が決まった。申請の際には、佐々木先生はじめ、CCNJの皆さま、他の自治体の皆さまからも助けていただき申請することができた。

## 【令和6年度各部会事務局の挨拶要旨】

### ①現代芸術の国際展部会

横浜市：

令和6年度の国際展部会は、5月の23、24と第8回横浜トリエンナーレの開催に合わせて開催する。横浜トリエンナーレは、2001年から今回で第8回となり、3月15日～6月9日までを予定している。横浜に来ていただき、担当者間のミーティングはもちろん、トリエンナーレもぜひご覧いただきたい。

### ②創造農村部会

丹波篠山市：

令和6年度についても年間3回の開催を予定している。第1回目と第3回目については、オンライン開催。第2回については、北海道の東川町で現地およびオンラインのハイブリッド形式での開催を予定している。

### ③国際ネットワーク部会

京都市：

令和6年度の国際ネットワーク部会については、今年度と同様に現地とオンラインでのハイブリッド開催を想定。開催地は、東アジア文化都市の開催都市の石川県と相談した。しかし、先の震災があったため状況を踏まえつつ検討していきたい。

ユネスコ創造都市ネットワークとの連携についても、部会として引き続き連携を模索していきたい。

## 【新規加盟都市の挨拶要旨】

大町市：

本市では現代アートの力を借り、地域の魅力を国内外に発信するとともに、観光誘客等によりコロナ禍で疲弊した地域の活力を再生し、持続可能な社会の実現を目指している。北アルプス国際芸術祭やアーティスト・イン・レジデンス事業など、文化芸術の振興を市の重要施策と位置付け、これまで取り組みを進めてきた。北アルプス国際芸術祭は今年で第3回となり、9月13日から約50日間を予定、現在準備を進めている。本取組は、人口減少や少子高齢化・地域経済の衰退など、多様化する地域課題に対して、文化芸術の振興によって解決していこうとする新たなまちづくりと位置付けており、市全体で取り組んでいる。

御代田町：

御代田町は長野県の東部に位置し、活火山で有名な浅間山の麓の町である。人口約1万6000人の小さな町だが、近年は、首都圏で活躍されているクリエイターの移住者も増え、今後、地域住民が一体となって参加でき、発展していける文化芸術の取り組みを目指すことが必要だと考えている。町の長期振興計画の中でも、文化芸術の織りなす地域づくりの推進を掲げており、その取り組みの一つとして、2018年から民間企業と共

同で浅間国際フォトフェスティバル PHOTO MIYOTA というアートフォトの祭典を毎年開催している。国内外から参加した作家の作品を屋内外に展示するとともに、作家によるワークショップなど、さまざまなイベントを企画・運営し、浅間山を望む豊かな自然環境の中でアート体験できるフォトフェスティバルを開催することで、地域住民に限らず、多くの人々が文化芸術に触れる機会をつくり、地域の活性化につなげていきたいと考えている。

### 【佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問）の総括要旨】

- ・ 10年前のCCNJ発足時は約20の自治体だったが、10年間で100以上の自治体が新たに加わり大きな成果が達成できたと実感している。また本ネットワークは国内の創造都市のネットワークだけでなく、ユネスコ創造都市ネットワークあるいは日中韓3国で推進している東アジア文化都市との連携を通して、世界あるいはアジアのさまざまな創造都市あるいは文化都市との交流という意味でのプラットフォームでもあり、着実に前進してきた。
- ・ コロナウイルスがまん延した約3年間は、社会の芸術文化セクターが苦況に立ち、創造都市ネットワーク自体の活動も十分発展するということができなかった。その中でも、北九州市が、2年間、幹事代表として、また東アジア文化都市活事業も例外的に2年間担っていただいた。
- ・ 元旦に能登半島を巨大な地震が襲い、まだ被災の中にある。金沢市の21世紀美術館も大きな被害を受け本格的なオープンが6月になる。石川県あるいは能登半島の創造的復興を、本ネットワークでも支えていく、応援するということをぜひお願いしたい。
- ・ 東アジア文化都市事業は、今年は石川県で開催し、七尾市を中心に開催する予定だったが、恐らく今年度は中止せざるを得ない見込みである。国際ネットワーク部会の開催は、石川県以外の他都市で、あるいはユネスコ創造都市ネットワーク関係での開催を検討されるほうがいいのではないかと思う。
- ・ 新しく高松市に幹事代表を引き受けていただく。四国で初めてとなる。これまでのCCNJの活動をさらに発展させるため、高松市を盛り立てて、皆さんと前進していきたい。

